

# 子どものための保幼小接続を考える

—幼児期から繋いでいくものとはなにか—

2023

12/11 (月)

14:00～16:00

広島大学中央図書館  
ライブラリーホール

国においては「幼保小の架け橋プログラム」により、子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育むことが目指されています。全国的な架け橋期の教育の充実とともに、モデル地域における実践を並行して集中的に推進するとされていますが、その実態は様々です。

本シンポジウムでは、東広島市において実施されている保育の質向上のためのアクションプランの観点から、幼児教育・保育の年長児をどのように小学校に繋げていくのかを考えたいと思います。

## 話題提供1

七木田 敦（広島大学・附属幼年教育研究施設）  
スウェーデンにおける就学前クラスの実践から  
—保育と教育の狭間を乗り越える—

## 話題提供2

杉村 伸一郎（広島大学・附属幼年教育研究施設）  
幼児の数概念の発達からの提案  
—小学校に向けて何が求められるのか—

## 基調講演

板垣 祐美（竹原市教育委員会  
総務学事課主幹（兼）指導主事）  
保幼小をつなぐために  
—小学校教諭から見た幼児教育—



西条駅よりJR/芸陽バス「広島中央口」下車

主催：広島大学大学院・附属幼年教育研究施設  
東広島市子ども未来部保育課

<お問い合わせ>082-424-4388 / obayumi@Hiroshima-u.ac.jp (大場)